

特集 大学病院が担う救急医療について 救命救急センター × 総合診療科



さらなる飛躍へ



病院長
広域医療連携センター長
南 敏明

2023年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2022年7月1日に大阪医科薬科大学病院 病院新本館A棟が開院し、救命救急センターが開設されました。「24時間断らない救命救急センター」と「24時間断らない手術室」との連携はスムーズで、超緊急手術が施行されています。現在、以前の手術室・集中治療室があった中央診療棟の解体工事中で、2025年7月に病院新本館B棟が完成いたします。今後2年6カ月の間、工事のために動線が長く複雑になりご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。なお、2023年1月9日（月・成人の日）は平常通り開院いたします。少しでも気になることがあれば、休日でするのでご利用しやすいかと存じます。

本年も皆さまの窓口になる「広域医療連携センター」を何卒よろしくお願い申し上げます。



特集 大学病院が担う救急医療について

高須 朗 救命救急センター長
救急医療部 科長
救急専門医 外科専門医 熱傷専門医
米国ピッツバーグ大学サーファー研究所留学
専門は救急医療全般、特に外傷、蘇生、熱傷、中毒などに携わる。日本救急医学会 評議員

センター長からご挨拶

三島医療圏の救急医療の「最後の砦」として、あらゆる救急医療に対応する救命救急センターが新しく設置されました。新本館A棟1階の大部分が初療フロアで、三次救急対応のCT室に直結した蘇生・手術室2室、さらに二次救急初療エリアがあります。3階の救命救急専用ICUへは直通エレベーターで連結され、初療からシームレスな診療を行います。



発足後1ヶ月救命救急搬送用ホットライン約 **120** 件



コロナ重症患者受入実績 **260** 件以上



二次・三次の中間病態を含め年間対応数 **2,000** 件見込



ドクターカー出動（日勤帯のみの運用）平均 **30** 回/月

地域貢献をテーマに体制整備

当センター設置に至ったきっかけは、三島救命救急センターの老朽化と本学創立100周年記念事業として新病棟を建てる話が重なり、移転への流れが本格化しました。大学病院が併設されているので、病態が落ち着いた段階からは各診療科の医師に引き継ぎができ、転院しなくてよい点は地域の患者さんに大きなメリットとなります。

高齢社会に欠かせない救命救急

医療の高度化や多様化が進んだ結果、90歳を超えた患者さんが救急搬送されてくるケースもあり、こうした高齢者は多様な病態を抱えている場合も多いため対応には慎重さが求められます。病態としては三次救命に該当しなくとも総合的に判断し三次として受け入れる社会的責任を果たすケースもあります。これらすべてを受け入れられるのが、私たちの特長です。

専門医によるチーム医療

1人の患者さんに医師が最低でも3名、看護師を合わせると5~8名のチームで対応します。また、複数の医師が分担して頭から足の先までを同時に診ていくことで、必要な処置と手順をその場で即決して実施します。常に重症度と緊急性を考えた判断を行いながら、チーム医療による多職種連携が実行される現場です。

最後の砦としての役割を果たす

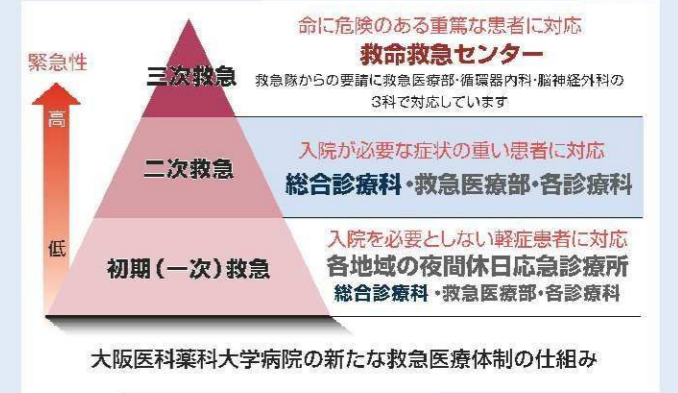
コロナ対応について当院では、当初の第1波から第7波まで常に重症患者を可能な限り受け入れてきました。現実問題として一般救急を受け入れながらのコロナ対応は、決して容易ではありません。とはいえ三島医療圏で私たちが担っている役割を考えれば、どちらも受け入れる責任があります。これだけの対応をできるからこそ名実ともに三島医療圏での最後の砦になりうると考えています。

「さらなる飛躍へ」 救命救急センター × 総合診療科

総合診療科と救命救急センターとの協働でより総合的な急性期医療への貢献を目指す

総合診療科 科長 **鈴木 富雄**

救命救急センターの開設に伴い、三次救急に関しては、救急医療部を中心に搬送用ホットラインでコールされる循環器内科や脳神経外科などの専門各々が高度で専門性の高い診療に注力できるように、一次・二次救急（特に夜間・休日体制）に関しては、総合診療科を中心に各科の臨床研修選任指導医と初期研修医が加わったチームを組んで臨んでいます。二次と三次の境界については救急隊の連絡時には難しいこともありますが、搬送後の状況から判断し、救急医療部と協働して柔軟に対応しています。一次・二次救急の現場は年齢・性別を問わず様々な状況への対応が求められますが、上記のチームで対応できなければ各専門診療科の協力を仰ぎ、迅速かつ適切な診療が行われています。また、救急診療に携わる各診療科や多職種の代表者で構成される救急診療連携協議会が定期的に開催され、運営に関しては救急医療部と総合診療科のみならず、全病院的にサポートされる体制が構築されています。救命救急センター開設後、総合診療科の入院件数および各種の業務量が著しく増大しておりますが、救急診療に携わる責任の大きさと共に、急性期診療の一端を担うやりがいも感じており、各診療科や多職種の協力の下、地域医療に貢献していきたいと考えております。



「断らない救急医療」を目指して

救命救急外来 看護師長 **和田 里美**

当院では三次救急の搬送依頼は医師、二次救急の依頼は看護師が担当しており、救急医療部の医師はもちろんのこと、各診療科と連携を取りながら「断らない救急医療」を目指しています。緊急度・重症度の高い救急救命においては患者さんやご家族の不安もかなり大きいと考えられますので、患者さんやご家族の目線に立ってその思いに寄り添いながら迅速で適切な看護が提供できるよう、スタッフ一同日々努力しています。



医療機関からの救急医療(当日受入・転院相談等)へのお問い合わせ

医療機関専用 緊急ホットラインのご紹介(各診療科の医師がご相談を承っています) [詳細](#)

大阪医科薬科大学病院

循環器内科ホットライン

24時間 365日対応

大阪医科薬科大学病院

大動脈ホットライン

24時間 365日対応

大阪医科薬科大学病院

脳卒中ホットライン

24時間 365日対応

大阪医科薬科大学病院

風湿熱ホットライン

24時間 365日対応

大阪医科薬科大学病院

赤ちゃんの心臓ホットライン

24時間 365日対応

※運用の問い合わせ・ホットラインカード送付のご依頼は、医療連携室までご連絡ください

上記ホットライン以外のご相談の場合

- 平日 8:30~16:50/土(1・3・5) 8:30~12:40 ⇒ 医療連携室(直通) 072-684-6338
- 上記時間外 ⇒ 病院(代表) 072-683-1221



TOPICS / アレルギーにやさしい街を目指して:アレルギーセンター活動報告

「アレルギーにやさしい街 たかつき」をスローガンとし、令和3年11月にアレルギーセンターを設立いたしました。あっという間の1年でしたがアレルギーセンター総合診を水曜日の午後を作り横断的診療の現場体制を整え始め、また学術活動として①横断的診療体系の構築をテーマとした多職種の医療従事者対象講演会を3月に、②食物アレルギーをテーマとした市民対象講演会を8月に、③喘息をテーマとした地域医療従事者対象の講演会を11月に開催いたしました。アレルギー疾患療養指導士(CAI)認定試験合格者も5名誕生し、その他、日本医事新報社からTotal allergistを目指す方対象の教科書の執筆依頼をいただき、アレルギーセンター委員を中心に作成を開始しています。皆さまの診療所の机に置いていただけるような教科書にしたいと思っています。また、令和5年の11月には日本アレルギー学会の近畿地方部会を当センターで主催することになりました。奨学寄附金も獲得しましたので、各講演会開催のみならず臨床研究にも着手し「アレルギーにやさしい街 たかつき」を目標に歩みを進めていきたいと思っています。

〈予約方法について〉

医療連携室を通して予約をお取りください。

FAX紹介申込書に「アレルギーセンター宛」と記載の上、主となる症状の診療科にお申し込みください。



診療担当表

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科				池田 崇一郎 (第3午後)	中村 敏彦 (第1午後)
小児科			大関 ゆか (午後)		
眼科	田尻 健介 (午前)	吉川 大和 (午前)	田尻 健介 (午前)	吉川 大和 (午前)	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科			寺田 哲也 菊岡 祐介 (午前)		
皮膚科					福永 淳 金田 一真 (午前)
アレルギーセンター総合診			◎ (午後) 初診不可		

※「多臓器/多領域にわたる疾患」、「重症例」、「ご本人の希望がある」の場合は、アレルギーセンター総合診での診察をご案内いたします。



医療連携室からのお知らせ

2023年1月9日(月・成人の日)は、通常診療日です。

外来診療、各種診療、手術を行います。

シャトルバス (JR高槻⇄大阪医薬大病院) 通常通り運行

※三島南病院は休診のため、シャトルバス (大阪医薬大病院⇄三島南病院) 運休です。



当院ポフンティアグループ「ふれあい」が毎年製作しています。

医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)



送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください

編集後記

先日のカタールW杯で日本代表はスペイン、ドイツといった強豪国から勝利を収め、視聴率は早朝にも関わらず軒並み30%を超え、街中では見知らぬ人同士がハイタッチ。日本中が歓喜の嵐で、コロナ前を思い出させてくれる数日間でした。

さて、当院は7月の新館A棟の開院を皮切りにB棟も2025年の完成に向けて目下工事中です。日本代表が一丸となり盛り上げてくれたように当院もスタッフ一同、連携・協力をして各医療機関の皆さまや患者さんにとって「よりよい病院づくり」に取り組む所存でございます。(T.N.)

